



大原冬に入る[京都府京都市左京区大原] 1966年



草原六月[北海道厚田郡厚田村聚富村] 1967年

民家のある季節

向井潤吉が描いた

季節の美

2003年 12月6日(土) → 2004年 3月28日(日)

開館時間＝午前10時～午後6時(入館は5時30分まで)

休館日＝毎週月曜日(ただし祝日と重なった場合は翌日)

年末年始: 12月29日(月)～1月3日(土)

観覧料＝一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円)

65歳以上及び障害者の方100円(80円)

()内は20名以上の団体料金 土・日・休日は小・中学生は無料

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

民家のある季節

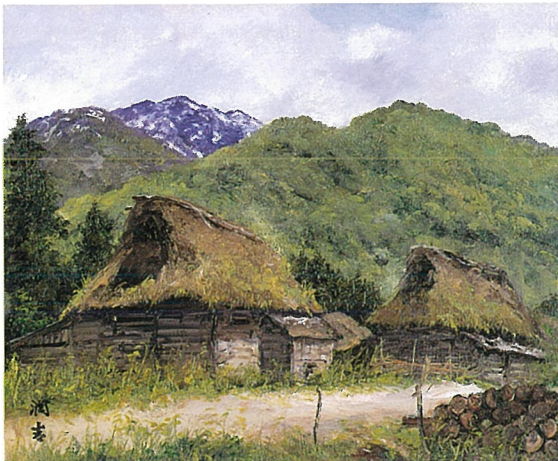
向井潤吉が描いた 季節の美



叢中の梅 [埼玉県東松山市神戸] 1987年



五月田麦俣 [山形県東田川郡朝日村田麦俣] 1965~75年



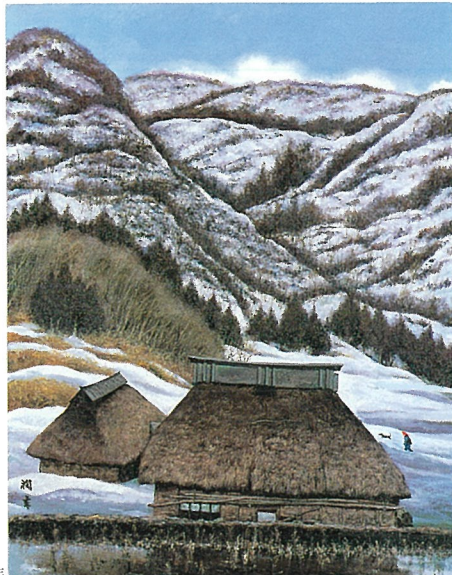
山峡初夏 [神奈川県足柄上郡山北町世帯] 1975年頃



奥多摩の秋 [東京都奥多摩郡] 1975年



岳麓秋色 [山梨県南都留郡忍野村] 制作年代不詳



宿雪の峽 [長野県下水内郡栄村秋山郷] 1983年



叢林秋日 [埼玉県大里郡川本町] 1977年

向井潤吉先生は、ご家族と長年にわたって住まれてきた自宅を、自費を投じ改修され、そして多くの作品とともに、区民の文化向上に役立てて欲しいという希望を添え、世田谷区に寄贈されました。

こうして、1993年(平成5)に、世田谷美術館の分館として開館した向井潤吉アトリエ館も、今年で開館10周年を迎えることができました。

本展では、向井潤吉先生が四季のうつかりに美を求めて全国を歩かれ、その絵筆によって描きとめた民家作品の魅力を、油彩画、水彩画などを通じ、ご紹介いたします。

日本の風土の中で育まれてきた草屋根の民家は、おのおの地方の環境によって、それぞれ独特な構造やかたちをつくってきました。民家の構造やかたちは、風土と人の営みによって、長い歳月をかけて形成されてきた、自然と人知による造形と言うことができます。

今日において現存する草屋根の民家は、その数を減らし、その姿は、私たちの心に郷愁とも言える心情をしばしば喚起することになり、今や日本の原風景というイメージの一部になっていると言えます。しかし同時に、民家を取り囲む美しい日本の風土は、とりわけ戦後において、加速度的に減少を続けてきました。

こうした民家を含んだ風景は、いわゆる田園という言葉や表現に集約されますが、それぞれの地域において、その風土や生活、土地に育った産業は異なり、その結果、民家の構造と、その外観は様々な点で差異を示しています。

戦後間もなくから始まった向井潤吉先生の民家を求める旅は、40数年間という長い歳月を重ねることになり、そこに生まれた数々の作品は、向井先生が若き日から培ってきた的確で、臨場感溢れる写実力によって、力強く、みずみずしい民家の輝きと、美しい日本の風土、風景を今なお伝えることになっています。またそこには、向井先生が培ってきた、深く、独特な風景への眼差しと、心情が宿っているものと思われまます。

世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

- 最寄り交通機関のご案内
- 東急田園都市線【駒沢大学】駅 西口 下車/徒歩10分
 - 東急世田谷線【松陰神社前】駅 下車/徒歩17分
 - 東急バス(渋05) 渋谷~弦巻営業所 【駒沢中学校】 停留所下車/徒歩3分
 - 東急バス(等11) 祖師谷折返所~等々力【駒沢三丁目】 停留所下車/徒歩3分
 - 東急バス(渋11) 渋谷~田園調布 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分
 - 東急バス(渋12) 渋谷~二子玉川 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分

